

こどもも おとなも 元気いっぱい 東町小！



あずっ子

東町小学校学校だより

5月 1日発行

校長 野口 正孝

在籍児童数459名

(5/1現在)

「折り合いをつける力」を育てるために

新しい学年になって1か月が経ちました。教室の様子をうかがうと、落ち着いて学習に取り組む様子がよく見えます。特に今年度は、1年生が先生の話をよく聞き、勉強や運動に頑張っているなどという印象が強いです。やる気をもっていろいろなことにチャレンジしている様子が見えて、大変うれしく思っています。

さて、懇談会の最中にあいさつにお伺いしましたが、その際に折り合いをつける力が必要ですよというお話をさせていただきました。先日行われた全国学力状況調査では、これまでの学力観とは大きく異なる調査内容でした。入間市では学びあいを推進していますが、まさに学びあいで養われる学力が今後は必要です。では、学びあいを行う上での素地は何か。それが、他者と「折り合いをつける力」です。小学校の低、中学年は、まだまだ自己中心的です。意見の衝突を繰り返し、お互いが譲り合うことを経験しながら「折り合いをつける力」が育ちます。特に中学年ではギャングエイジ時代となり、集団遊びを通して成長します。何をして遊ぶのか、ルールをどうするのか、チームをどうするのか。決めなければならないことがたくさんあり、それを解決する中で社会性が育ちます。ただ、折り合いをつけるということはある意味、妥協することです。時にはそれが他者への不満となり、トラブルへつながります。

ここで大人として大切なのは、暴力を伴ったり、いじめにつながったりするトラブルを除いて、長い目で見守るということです。トラブルを解決するためにすぐに大人が手を出してしまえば、子供たちに「折り合いをつける力」が身に付きません。ですから、大人はどうすればトラブルの解決に至るかを一緒に考え、解決できた時にほめてあげることが大切です。見守っていく中で何か不安なことがあれば、担任までご相談ください。学校、家庭が連携し、子供たちの社会性を育てていければと思います。